

# 基本計画

# 第1章 元気で働き、豊かなまちに

## 第1節 健康を保つ

### 1 保健

#### (基本的な考え方)

- 保健福祉総合センターを拠点に、各種検診や相談・指導などを通じて健康管理に努めるとともに、健康維持・増進を促進します。

施策	現況と課題
総合的な体制の充実	<p>平成12年に「保健・医療・福祉ネットワーク基本計画」を策定し、総合的な体制の充実に努めてきました。平成16年には保健福祉総合センター「しゃきっとプラザ」がオープンし、保健・福祉活動の拠点として利用されています。</p> <p>今後も、基本計画を段階的に進め、関係機関との連携をより一層図っていくことが必要です。</p>
保健予防、保健指導の推進	<p>本町における死亡者の死因は、全国傾向と同様、悪性新生物(がん)・心疾患が上位を占めています。また、食生活の変化や運動不足による生活習慣病が増加傾向にあります。ライフステージに応じた保健予防・指導を進め、日常生活での健康意識を高めていくことにより、疾病を予防していくことが必要です。</p>
介護予防の推進	<p>高齢化が進むなか、介護予防は重要な課題であり、町民の関心も高まっています。</p> <p>健康維持とともに、各分野・関係機関が連携して認知症等の早期発見や状態悪化を防ぐ対応を行っていくことが求められています。</p>
健康づくりの推進	<p>近年、健康維持や健康づくりへの関心が高まっています。「しゃきっとプラザ」にはトレーニング機器や水中運動が行える設備があるほか、健康づくりにつながる各種教室を開催しており、町民の健康づくりを支援しています。</p> <p>施設の利用や各種教室への参加に加え、地域や家庭での運動、食生活の改善など自己管理の向上を図り、より多くの人々が健康づくりへの関心を高めていくよう促進していくことが必要です。</p>

## 主な取り組み内容

### ■地域保健医療福祉情報システム の構築

地域保健医療福祉情報システム：保健・医療・福祉分野の情報の共有化や、相互に情報交換できるシステムで、情報のネットワーク化により、効率的で関係機関が連携のとれたサービスの提供をめざすもの。

### ■総合的で連携を強化した地域保健、学校保健、職域保健の推進 ■成人の歯科検診の実施

ライフステージ：人の一生を段階ごとに区分したもの。幼児期、児童期、青年期、壮年期、老年期など。

### ■介護予防マネジメント 体制の確立 ■栄養改善など新たな介護予防メニューの実施 ■地域ぐるみでの軽度認知症の早期発見 ■認知症に関する地域サポート体制の整備

認知症：脳血管疾患やアルツハイマー病などが原因で、記憶、判断、言語、感情などの精神機能が慢性的に減退し、日常生活に支障をきたした状態。（従来「痴呆症」という用語に替わる言葉）

### ■自治会など地域における健康づくり活動の促進 ■ヘルスリーダー の育成と自主的活動の促進 ■肥満解消に向けた食生活改善の推進

介護予防マネジメント：介護の予防と悪化防止のため、対象者への状態の一次評価、介護予防ケアプランの作成、サービス提供後の再評価、事業評価などを行うこと。

ヘルスリーダー：ヘルスリーダー養成講座を受講し、自らの健康に関心を持ち、健康的な生活習慣を実践するとともに地域における健康づくりのリーダーとして主体的に取り組む人。

## 2 医療

### (基本的な考え方)

- 町民の医療ニーズをふまえ、国民健康保険病院の充実に努めます。
- 救急医療、広域医療に関する体制の維持、向上に努めます。

施策	現況と課題
国民健康保険病院の充実	<p>美幌町立国民健康保険病院は平成 12 年度に改築し、周辺自治体を含めた地域の基幹病院としての役割を担っています。課題であった経営改善については、改善目標に基づき実施した結果、赤字経営が解消されました。</p> <p>地方の医師が不足しているなか、当院においても診療科目が減少し、派遣医師に依存している状況です。救急医療や人工透析のニーズが高まっており、医師の常勤化が課題となっています。</p>
広域医療体制の充実	<p>国保病院は広域的な医療圏のなかでも基幹病院としての役割を担っており、近年ニーズも高まっています。</p> <p>今後も周辺の病院、診療所との連携を深め広域医療体制を強化していくことが必要です。</p>
救急医療体制の充実	<p>国保病院は救急告示病院の指定を受け、24 時間救急医療に対応しています。また、医師会による在宅当番医制により初期救急医療体制を確保しています。</p> <p>人員の確保や連携の強化により、体制の維持・向上に努めていくことが求められています。</p>

## 主な取り組み内容

- 固定医師の確保
- 新たな診療科の検討
- 医療ソーシャルワーカー による相談充実
- 地域包括ケア の推進（保健・福祉との連携）

- 病診、病病連携 の推進
- 広域医療組織の設立検討

- 国保病院における救急医療体制の充実

医療ソーシャルワーカー：医療分野におけるソーシャルワーカー。治療を進めて行く上で持つ不安や心配ごとを聞き、解決へ向けたアドバイスを行う専門職。

地域包括ケア：病院を中心に保健・福祉分野との連携により、早期診断、予防活動、退院後のリハビリ、老健・介護施設でのケア、訪問診療などを一体化し、総合的に健康管理を行うサービス。

病診、病病連携：より良い医療の構築のため、病院と診療所、他の病院が協力して、よりよい医療を提供すること。

初期救急医療体制：地元医師会を中心に休日の比較的軽症な患者の医療を当番で担当する救急医療体制。そのほか、国保病院のように昼夜を問わず発生する急病や事故等で手術・入院を必要とする重度の患者に対応する2次救急医療機関、北見赤十字病院のような高度な医療体制の3次救急医療機関がある。

## 第2節 活力ある産業を振興する

### 1 農業

#### (基本的な考え方)

- 生産性の高い農業基盤を確立し、農畜産物の安定生産を進め、経営の体質強化を図ります。
- 担い手の育成と確保を図り、将来にわたり持続可能な強い農業づくりを推進します。
- 環境と調和した活力ある農業を進め、安全で安心な農畜産物の生産、供給を図ります。

施策	現況と課題
生産基盤の保全・整備	<p>本町の基幹産業は農業であり、農業の歴史とともに歩んできています。現在は畑作中心で、小麦、馬鈴薯、甜菜がその多くを占めています。効率的かつ安定的な農業を展開するには優良農地の確保が最大の基本であり、そのためには環境との調和に配慮しながら、基盤整備や地力増強に向けた取り組みを進めていくことが必要です。</p>
担い手の育成・確保と生産性の向上	<p>輸入農産物の増加や国内の他産地に対抗するためには、消費者のニーズや需要の動向に即した、安全・安心で良質な農産物を安定的に、低コストで供給することが重要です。</p> <p>経営感覚に優れた担い手を育成・確保するとともに、農地流動化の促進や農作業の共同化などを進め、生産体制の効率化を促進していくことが必要です。</p>
新たな農業の展開	<p>本町では農業所得の向上を目的として野菜、花きなどの収益性の高い作物の導入を進めてきました。今後も多様化する消費者のニーズを把握するとともに、低コスト流通システムの構築や化学肥料や農薬の使用を抑制し、環境に配慮した「クリーン農業」の推進、付加価値向上を目的とした農家の直接販売や加工など、地産地消の取組や農作物のブランド化を図っていくことが必要です。</p>
畜産の振興	<p>酪農は作業の省力化による労働時間の短縮や老朽化している飼養施設の改善、衛生的で良質な生乳の生産などが課題となっています。肉用牛は飼育管理技術の向上をめざし、高品質な肉用牛の生産を推進するとともに、低コストで良質な牛肉の生産体制を整備することが必要です。</p> <p>美幌峠牧場については、飼養管理技術の向上とともに、有畜農家の省力化と生産コストの軽減に向けた取り組みが求められています。</p>

## 主な取り組み内容

- 新規土地改良事業 の推進
- 道営担い手畑地帯総合整備事業 の推進
- 地力増強対策事業 の推進継続
- 国・道による整備施設の更新、管理の要望
- 農地保全の推進
- 一般農作物原・採種圃設置対策の推進継続
- 農村地区環境保全対策事業 の促進
- 農業生産活動環境対策事業 の促進

- 農地流動化 対策の推進
- コントラクター の導入
- 農業情報ネットワークの推進
- 農業経営に関する支援体制の充実
- 農作業の共同化・農業機械の共同利用の推進
- 法人化の推進
- 集落営農 の推進
- 新規就農者等への支援

- 地域特産作物振興育成の推進
- みらい農業センターによる新規農作物の実証展示
- 人参洗浄選別施設の整備
- 馬鈴薯集出荷貯蔵施設の整備
- 地場産農産物の消費拡大
- クリーン農業の推進
- グリーンツーリズム の推進

- 乳用牛検定 の推進
- 酪農ヘルパーの利用促進
- 公共牧場利用の促進
- 家畜防疫衛生対策 の推進
- 肉用牛の生産振興

土地改良事業:農業の生産性の向上のため、農地の土質や水はけの改良、急傾斜農地の再整備、小さな畑地をまとめて集約化するなどの事業。

道営担い手畑地帯総合整備事業:農業用水・排水施設や農道の整備、農地の区画整理、集落環境の整備など農業の生産の基盤を総合的に整備する事業。

地力増強対策事業:土壌診断に基づいた適正な肥料管理と堆肥や緑肥を導入し地力を高めるための事業。

農村地区環境保全対策事業:農家住宅・地域集会室等の周辺整備(花壇など)廃屋の撤去や傾斜農地を平らにした際の斜面の緑化などを推進する事業。

農業生産活動環境対策事業:農業用廃プラスチックや廃農機具、廃棄農産物などを適正に処理する事業。

農地流動化:将来も確保すべき優良農地が離農などにより遊休化や耕作放棄地とならないよう農業者に集積すること。

コントラクター:さまざまな農作業を行う農作業請負組織。

集落営農:集落を単位として、生産行程の全部(又は一部)を共同で取り組む営農活動。

グリーンツーリズム:都市と農村地域において、その自然、文化、人々との交流を楽しむ余暇活動。

乳用牛検定:生乳生産の品質向上を図るため、生乳を検査し乳質の改善を図るための事業。

家畜防疫衛生対策:家畜(牛・豚・鶏等)の伝染病の発生・拡大を未然防止するための対策。

## 2 林業

### (基本的な考え方)

- 環境に配慮した持続的な森林整備を推進するとともに、林産業や林家の経営安定や付加価値向上に努めます。
- 森林の多面的な機能を有効的に活用し、町民による森づくりの場やふれあい・育てる機会の拡充に努めます。

施策	現況と課題
森林の整備	本町の森林は総面積の約6割を占めており、その多くはカラマツの人工林です。 森林の公益的な機能の発揮や資源としての価値を高め活用するためには、計画的な森林管理を行うことが必要です。
付加価値の向上	平成17年に取得した国際基準である「FSC森林認証」の推進など、今後も、環境に配慮した森林から生産された木材・木製品の付加価値の向上を図るとともに、消費者に対して環境材としての理解と利用を促進していくことが必要です。
経営の近代化・効率化の推進	担い手不足と高齢化による林業労働者の減少のほか、安価な外国産材の輸入増加や産業・消費構造の変化などによる木材価格の低下など、林業を取り巻く環境は厳しい状況となっています。林家による林業グループの結成や木材業界による協同組合化などが行われていますが、事業規模が小さいため、今後も組織の強化や効率化、省力化、近代化に向けた取り組みを促していくことが必要です。
森林の有効活用	近年は、良質な水を河川に供給するなど森林の果たす公益的な機能の重要性が評価されつつあります。本町においても、みどりの村など森林に親しめる場を通じて、多面的な有効活用を考えていくことが大切です。

## 主な取り組み内容

- 森林環境保全整備 の推進
- 町有林造成の推進
- 野そ駆除 の推進
- 森林管理に必要な林道整備の継続

- 森林認証林の拡大
- F S C 森林認証取得等による地域材のブランド化
- 地材地消による地場産材の利用推進
- C o C 認証取得の推進

- 林業グループの育成・組織強化の推進
- 林産物加工施設整備の推進

- 未来を拓く森林づくり事業の推進
- 森林浴、森林セラピー などへの活用研究

森林環境保全整備: 森林の持つ多面的な機能を発揮するために、造林、下刈り、除間伐や作業路の整備など適切な森林の整備・保全。

野そ駆除: 植林した苗木が野ネズミによって被害を受けることを防止するため、薬剤を散布して駆除すること。

F S C 森林認証: Forest Stewardship Council(森林管理協議会)が適正な森林管理が行われていることを一定の基準によって審査・認証すること。

C o C 認証: F S C 森林認証を受けた森林の木材・林産物を加工・流通させるため、他の製品と混ざらないよう適切に管理されたものを証明する制度。

森林セラピー: 森林が持つ癒し効果を健康増進やリハビリテーションに役立てる森林療法をいう。

### 3 工業

#### (基本的な考え方)

- 地元企業の育成と第1次産業などの他産業との連携により、経営の安定化を図ります。
- 産業の創出と企業の誘致により、経済活性化を図ります。

施策	現況と課題
工業の振興	本町の工業は、食品加工など基幹産業の農業と関連したものが多く、市場において高い評価を得ています。そのほか、鉄筋・鉄骨やコンクリートなどの建設資材工場の立地、電子部品などの精密機械工場、自動車・農機具整備工場などがあり、地域経済の活性や地元の雇用の創出に貢献しています。今後も、経営の安定や発展を促進していくことが必要です。
企業誘致の推進	工業用地の環境整備や関連調査など企業誘致に取り組んでいますが、景気の低迷により企業進出数が伸び悩んでいます。今後も、本町の特性を全面的にPRした誘致活動が必要です。

## 主な取り組み内容

- 経営相談・指導の強化
  - 研究活動の充実
  - 異業種間交流の推進
  - 稲美工業用地利用促進
  - 技術改善に対する支援整備促進
- 
- 企業誘致推進育成協議会 の充実
  - 工業用地の環境整備の推進
  - 町の資源や特性を活かせる企業の誘致

企業誘致推進育成協議会：企業誘致の推進と既存企業の育成振興を目的に、商工会議所役員・議員、町議会議員、知識経験者の委員で構成し調査研究と誘致育成活動を行っている。

## 4 商業

### (基本的な考え方)

- 商店の経営基盤の強化やサービス向上など、町民の生活を支える商業の振興を促進します。
- 中心市街地活性化基本計画 に基づき、TMO と一体となった中心市街地活性化事業を展開します。

施策	現況と課題
経営基盤の強化、経営の近代化	<p>交通の利便性が良い本町は、近隣市町村の商業圏となっています。しかし、北見市などへの購買客流出や町内における大型店舗の進出などにより、既存商店の経営環境は厳しい状況です。</p> <p>サービスなどソフト面の向上により地域に密着した店舗として魅力を高めるよう促進していく必要があります。</p>
商店街の魅力向上	<p>町内には5つの商店街があり、中心市街地を構成しています。中心市街地の商店の空洞化が進む一方、借上公営住宅の整備により中心市街地に移住する高齢者が増え、今後は空店舗などの利用促進が求められています。</p> <p>このような中、平成16年に「中心市街地活性化基本計画」を策定し、市街地の整備改善と商業の活性化を一体的に進めています。</p> <p>今後も計画に基づき魅力ある商店街づくりを進めていくことが必要です。</p>

## 主な取り組み内容

- 中小企業融資・助成制度の充実
- 経営相談・指導の強化
- 販路拡大にかかる支援・強化
- 協同組合 の組織化
- 新規起業家に対する支援制度の充実

- テナントミックス管理計画 の策定
- 空店舗の活用促進
- 商店街の景観形成に関する調査、検討
- にぎわいの駅 整備に関する調査、検討
- ポイントカードシステム の検討
- 商店の情報発信の推進

中心市街地活性化基本計画：市街地の整備改善と商業の活性化などを一体的に推進し、中心部と郊外部がバランスよく発展することを目的につくられた計画。（平成 16 年策定）

TMO : Town Management Organization の略で、中心市街地の活性化のためにさまざまな活動や企画調整を行う組織。

協同組合：人びとの結びつきによる自治的な共同組織。人びとが共通の経済的・社会的・文化的なニーズと願いを実現するために自主的に手をつなぎ、事業体を共同で所有し、組合員による民主的な管理運営を行っていく相互扶助組織。

テナントミックス管理計画：消費者ニーズ、ライフスタイルの変化に対応して不足する業種、業態を計画的・効果的に配置し、中心市街地の集客力向上を図る計画。

にぎわいの駅：大通地区にテナントミックスに資する店舗を建設し、インフォメーション機能を兼ね備えた休憩施設を併設することにより、中心市街地の核施設として賑わいのある商店街づくりをめざす取り組み。

ポイントカードシステム：買物によってポイントを与え、貯まったポイントを消費者に還元するなど、消費者へのサービス拡大や町外への消費流出を抑えるため導入するカードシステム。

## 5 観光

### (基本的な考え方)

- 観光資源や施設を有効活用し、観光客の増加や滞留型観光を進めます。
- 農業や商業など、他分野との連携により裾野の広い観光を展開し、地元産業の活性化を図ります。

施策	現況と課題
<b>総合的な推進体制、ビジョンの確立</b>	<p>阿寒国立公園に指定されている「美幌峠」は本町を代表する観光地であり、道東観光の入口となっています。年間 100 万人以上が訪れていますが、通過型観光となっており、滞留型観光への転換が望まれています。</p> <p>知床の世界遺産登録により道東地域全体の集客増が望まれるなか、本町での観光・滞在を促す取り組みを総合的に進めていくことが求められています。</p>
<b>既存施設や観光資源の保全、有効活用</b>	<p>町内には、自然豊かな「みどりの村」をはじめ、日帰り入浴施設「峠の湯びほろ」、平成 14 年に改築し、道の駅に登録された「美幌峠レストハウス」などの観光施設があります。滞在型観光をめざすためにも、既存施設の魅力化や利便性を高めていくことが重要です。</p> <p>ほかにも、「美幌峠」に代表される景勝地や美しい景観があり、本町をアピールする観光資源として、適切な保全と活用が求められています。</p>
<b>観光情報の提供、サービスの向上</b>	<p>本町内の観光資源は分散しており、「美幌峠」を訪れた観光客が通過してしまうなど、滞在型観光が進まない要因の一つとなっています。</p> <p>町内の観光情報については、ホームページや情報誌などで広く提供するように努めていますが、情報の一元化や提供方法の拡充を図っていくことが必要です。</p> <p>また、情報に加えてサービスや接遇などのソフト面の充実も重要であり、国内に加えて国外からの観光客の誘致や対応が求められるなか、全町で取り組んでいく必要があります。</p>
<b>観光イベントの魅力向上</b>	<p>本町では、広大な網走川の河川敷で行われる「観光和牛まつり」など、近隣市町村からも多くの人を訪れるイベントがあるほか、美幌峠を拠点にパラグライダーなどスカイスポーツも行われています。今後も、参加して楽しむイベントの実施を含めた内容の充実が求められています。</p>
<b>地域特性を活かした観光の推進</b>	<p>本町では、みどりの村を拠点に「感動体験 美幌ツーリズム」に取り組んでおり、農業施設見学や農産物収穫体験などを通じて都市と農村の交流を行っています。また、本町を含む東オホーツク地域では、景観の特性を活かした取り組みなどが広域的に進められています。</p> <p>また、基幹産業である農業との連携など、地域の特性を活かした観光産業の発展や広域的な連携による観光資源の一層の活用が求められています。</p>

## 主な取り組み内容

- 観光ビジョン の策定
- 観光に係る企業、団体との連携強化
- 広域観光に対応する関係団体の連携強化

- 既存施設の利用促進（みどりの村、峠の湯びほろ、美幌峠レストハウスなど）
- 宿泊施設の誘致
- 美幌峠、美幌川などの観光資源の保全

- 観光情報システムの推進
- 観光ホスピタリティ（もてなしの心）の向上
- 国際化に対応した観光案内板の充実やガイドの養成

- 観光イベント・体験企画の充実

- グリーンツーリズム の推進
- 特産品・土産品の開発
- シーニック・バイウェイ の推進

観光ビジョン:本町の課題である通過型観光から滞在型観光・体験型観光への転換、地場産品の付加価値を高める特産品の開発など、今後の観光のあり方について示す計画。

グリーンツーリズム:都市と農村地域において、その自然、文化、人々との交流を楽しむ余暇活動。

シーニック・バイウェイ:「景観のよい」を意味する Scenic と、「脇道」を意味する Byway を組み合わせた言葉。景観・歴史・文化・自然・建築などの地域の魅力を「道」でつなぎ、美しい景観づくりや魅力ある地域づくりをめざす取り組みを進めている。

## 6 産業創造

### (基本的な考え方)

- 本町の地域資源をベースに、あらゆる団体との連携を深めながら地域特産の開発、育成を促進します。
- 技術習得の支援や労働対策を通じて、雇用の拡大や労働環境の向上を促進します。

施策	現況と課題
地域特産の育成	<p>本町では、地方資源活用型の工業が発展するなど、地域資源の活用がみられますが、「美幌町の特産品」としてのイメージが薄いのが現状です。</p> <p>地域のイメージを高め、地域の経済にも影響を及ぼす地域ブランドへの期待は、本町でも高まっています。品質の高い農畜産物、高い日照率や良質で豊かな水資源など、地域の特性を活かした特産品を開発し、本町全体のイメージアップにつなげる必要があります。</p>
地域特産の PR、販売	<p>物産の販路については、物産に係る団体、生産者や販売者との連携により、町外、道外に工夫を凝らし、取り組んでいます。今後は、それぞれの団体の連携や、観光と物産が連携した観光物産協会を中心とした販路拡大が求められています。</p>
雇用、労働対策の推進	<p>景気の低迷が長期化するなか、勤労者をとりまく環境は向上されていません。本町では、勤労者に対する資格取得のための助成等を行っていますが、厳しい雇用状況が続くなか、新たな産業に結びつくための技術の取得支援などによる雇用の促進が求められています。</p>

## 主な取り組み内容

- 研究機関、大学等との連携による開発支援
- 地域特産品の現状把握と連携会議の設立

- 地場産品等の販路拡大
- 物産展・物産関連イベントの参加促進

- 技術の取得支援による雇用の促進
- 地域雇用創造支援事業 の推進

地域雇用創造支援事業：地域の雇用創造に自発的に取り組む市町村等の取組を促進・支援することを目的として、経費の一部を国が助成する取り組み。